# ArteKodomotoKi

社会福祉法人 種の会　アルテ子どもと木幼保園
〒164-0001　中野区中野 1-59-5
Tel　03-3365-0602
ホームページ URL http://www.tanenokai.jp/

2021.
えんだより 12

# お知らせ

- 12月3日（金）アート展前日は16時から準備に入ります。早お迎えのご協力をお願い致します。当日、在園児の鑑賞は午前中のみとなります。ご注意下さい。

- 年内の保育は12月28日(火)まで、年始は1月4日(火)からです。
職員も交代でお休みをとりますので、年末年始のお休みの日を担任にお知らせ下さい。また、給食提供量を把握したい為、早めのご連絡に御協力をお願い致します。

- 感染症対策のため、お迎えの際には保護者同士の接触を極力控え、すみやかな降園をお願い致します。また、駐輪場でお子様が遊ぶのは危険ですのでおやめください。

- 地域子育て支援：11月6日（土）に第一回目の離乳食作り講習会を行いました。
12月10日（金）にはサーキット運動体験会を行います。平日ですが午睡中に開催しますので、子ども達との接触はありません。よろしくお願い致します。

| December 12 2021 | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| sun | mon | tue | wed | thu | fri | sat |
| | | | 1 | 2<br>運動あそび | 3 | 4<br>アート展 |
| 5 | 6<br>0歳児健診 | 7<br>音楽あそび<br>発育測定 | 8 | 9<br>運動あそび | 10 | 11 |
| 12 | 13 | 14<br>音楽あそび | 15 | 16<br>運動あそび<br>0歳児健診 | 17 | 18 |
| 19 | 20 | 21<br>音楽あそび | 22<br>避難訓練 | 23<br>誕生会 | 24<br>クリスマス会 | 25 |
| 26 | 27 | 28<br>音楽あそび | 29 | 30 | 31 | |

## アートは世界共通語

園長　山田寿江

子ども一人ひとりが何かと出会い、ふれあい、遊び、楽しみ、対話し、創り出して形となったものが作品です。心の内から沸きだし表現されたアートの世界は、子ども達が物語るストーリーでもあります。興味を抱いた素材や関心を持ったテーマは、保育者や友だちとの関わりを通して豊かに展開していきました。子ども達が紡いだ物語の世界観をアート展で存分に味わっていただけましたら幸いです。

**空想はいつか現実になる**

ファンタジーはリアリティと相反するように感じますが、子どもの世界では空想と現実に明確な境界線を引くことは難しく、ファンタジーとリアリティは混在しているものと思います。絵本など物語の世界で虚構は本物として描かれ、子どもは空想の世界に身を置き、ファンタジーと主体的に関わって楽しみます。空想の世界は、乳幼児の遊びの重要な一部なのです。
想像を膨らますことも空想の世界が本当かどうか知ることも、いずれは知識となる日が訪れるとしても、その日を急ぐことなく今の子ども時代のファンタジーを大切にしたいですね。

**English Immersion**

アルテにはフランス人のクリス先生がいます。英語で日常のやりとりをしますが、文化的背景の違う人とも関わることを大切にしたいとの考えです。日本人よりも日本人らしい性格の先生で、丁寧で細やかな作業も得意です。では、文化的背景とは？

クリスマスはツリーを飾ってサンタクロースからのプレゼントを待ち望むなど日本でも親しまれている行事のひとつですね。日本の伝統的な行事とは異なりますが、ケーキやフライドチキンは日本独自の文化として定着しています。ハロウィンはどうだったでしょうか。仮装行事となっていますが、本来は収穫を祝い悪霊を払うお祭りの一つです。

ＳＮＳなどが発達し世界の文化と触れ合う機会も多くなりました。当たり前に交流できる時代ですが、「知る」と「出会う」は同じではありません。知識として“フランス人を知っている”“英語を話せる”ということと実際に“フランス人と出会う”“英語で会話する”では、大きな違いがあります。

「出会う」ことでその人やその国の文化を深く感じることができます。知識で覚えて「知る」だけではなく、体と心で触れて受け入れ文化の融合が生まれるのだと思います。**豊かな人生を歩む**というときの豊かさには、多くの実体験、経験が含まれています。

## 【あそぶちから】

５歳ナノ組さんは就学に向けて午睡がなくなりました。小さい子ども達は寝ていますので、３歳児室を借りて静かに遊んでいます。ところが、私が遊びに行った日は、約束を忘れて騒いでしまった後でした。反省した子ども達は、今日は絵本だけにすると決め、静かに読書をしていました。しばらくするとＡくんが３歳児室の工作コーナーをじっと見つめて考えていました。

「先生見て！ほら、ペンで“と”が作れたよ！」サインペンを並べてひらがなの文字の形を作っていました。なんて面白いのでしょう。Ａくんは、今日は玩具は使えないと思い、ペンを使って新しい遊びを考えたのです。私は翌日から日替わりで様々な素材（毛糸、木のヘラ、テープ、糸、花びらなど）を持っていきました。子ども達は、英語やひらがな・カタカナでアルテという文字を作って遊びました。

「ぼくはＴの文字を作るから、誰かＲを作ってくれない？」
「私、もう作っているよ。すぐできるから一緒に飾ろうね。」
「あーみんながアとルばっかり作るからテが足りないよ」
「ここにあるよ」
「それはひらがなだよ、カタカナのテが足りないんだよ」
「アはＡでルはＲなのに、どうしてテはＴとＥの２つなくちゃダメなのかな？」

子ども達は毎日、アルテの文字遊びを楽しみました。

文字あそびの中で、“アルテ”の意味を問いかけてみました。

「アルテのアルはここにあるよっていうメッセージで、
　テは、うーん。……テテテテテテテテー　あっはっはっは」
「アルテのアはアヒルのア、アルテのルは、ル？ル？ルって難しいな～
　るるる、かえる、カエル、蛙！」
「手は人間の手」
「アルテは生き物？」
「そうだよ、生きているよ。猫みたいにね。でも耳は長いんだよ、
　ウサギみたいに。」

今月の表紙の絵はこのアルテの文字で作って遊んだ作品の一部を使いました。この文字遊びからアルテの動物を作る遊びに変化し、タワーに変わり、川の上にある街になり、そこには動物や人が暮らしているという世界を制作しています。子ども達のイメージは時をかけて変化しますので、アート展で展示する時にはまた違うものになっているかもしれませんが、友達とイメージを膨らませながら協力する姿をワクワクしながら見守っています。

主任　黒木

# AtoO

沢山の色に囲まれ過ごす中、色味を持たない“白色”との出会い。白色の様々な素材を目の前にしたO歳アト組。

扉が開くと“なになに？”と興味津々な子ども達。“入っていいのかな”様子を見ながら、ゆっくりと一人、二人…と白の部屋へ。紙、レース、発泡スチロール、布……。白い素材との出会いです。

周りの子が様子を見る中、A さんは先頭をきって白い素材へ。そこから次々と他の子も近付いて行きます。

B さんはフルーツキャップを手に取ると引っ張り顔に当て覗いていました。フルーツキャップ越しに見える景色を堪能しているようです。力を入れ伸ばすとちぎれることを発見。それからは沢山ちぎり、細かくする遊びへと発展していきました。

C さんは筒状のスチロール材を手に取り、持ち歩きます。穴の中に指を入れたり、口に運び確かめたり、振ったらどんな動きをするのか観察します。しばらく一人で観察をすると「おっ。おっ。」と声を発し、保育者に自分の発見したことを伝えていました。

時間の経過とともに白い素材と距離を縮める子ども達。
触り心地、重さ、形、同じ白でも全く違うもの。
子ども達の目にはどのように映り、何を感じ取ったのでしょう。
O歳アト組“白色との出会い”お楽しみに。

# Ato1

すっかり散歩の達人になった１歳アト組。靴も自分で履き、保育者が言わずとも友達と手を繋いで準備バッチリ！秋が深まった公園には彩り豊かな落ち葉やどんぐり。それに長～い枝やパリパリめくれる木の皮も。アート展では、子ども達がたくさん触れてあそんだ自然物をふんだんに用いた作品をお届けします。

## どんぐりとあそぶ

戸外で拾ったどんぐりを持ち帰り、園庭でもどんぐりあそび。Ｓさんはヒビの入ったどんぐりを拾い、「むきむき」と言いながらせっせと皮剥き。器用に剥くな～と関心しながら見ていると、「できない。Ｊ先生。」と呟くので、一緒にやってみるとこれが意外と楽しく、保育者も夢中でどんぐりの皮剥きをしていました。
子どものできることが増え、興味関心も広がってきたことで、見守る時間も多くなってきた今日この頃。ですが、こうやって子どもと同じ目線になって一緒にあそぶことで、子どもが指先や視界から感じていることを共有する時間も大切だなと思いました。
Ｍさんが「これなぁに？」と持って来たのは、うっすら赤みがかった白い実。どうやらこれは以前にＳさんが剥いたどんぐりの中身。時間を経て、変色を始めたようです。Ｍさんは繰り返し「これなぁに？」と保育者に尋ねます。初めて見る、普段とは違ったどんぐりの姿かたちが不思議なようでした。

今年のアート展のテーマは“であう・あそぶ・ものがたる”。この秋、１歳アト組の子ども達は、様々な自然物に出会い、たくさんの時間あそびました。変わっていくどんぐりの姿に気付いたり、枝がペンになることを発見したり…。アート展ではそんな子ども達と自然物の交わりを、ぜひご覧になってください。

# Pico2

## 虫たちのごはんを作ろう♪

この日、たくさんの虫を見つけたピコ組の子ども達。保育者が葉をちぎっていると「なにしてるの？」とＳくんがやってきて、虫のご飯を作ってみようと思ってるんだ～と聞くと突如の腕まくり！やる気満々で葉をちぎり始め、「なになに？」と興味津々でやってきたＫくんと一緒に「ピザだよ」「これはケチャップのピザ」という会話を楽しみながらご飯を作り、虫がやってくるのを待っていました♪

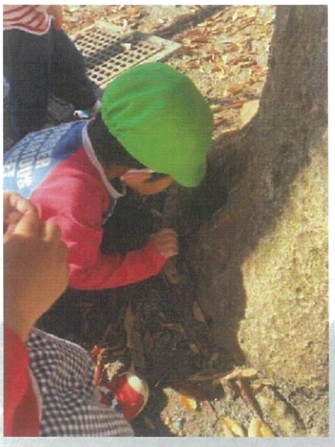
## 虫たちのお家を作ろう♪

たくさんの虫や、虫に関する絵本を見てきたピコ組の子ども達は、秋になり落ち葉が顔を見せ始めるとともに虫のお家作りを始めます。絵本で“だんごむしは落ち葉の下にいる”“落ち葉がごはん”などと知っていたので、多くの子が興味津々で落ち葉との触れ合いを楽しんでいました。落ち葉、砂、落ち葉、砂、また落ち葉。と重ねるように乗せていき、砂の落ちる音を楽しむとともに、大きくしようと友達同士で協力し合います。

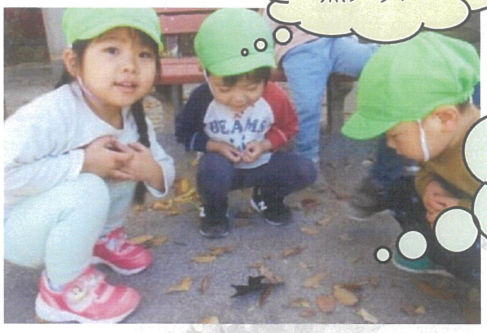
幼虫を見つけたＴくんとともに、家探しをするＳくん。「ここならいいんじゃない？」とＴくんや保育者に話しかけながら、幼虫にぴったりの場所を探すことができました。そしてＳくんは穴の中に幼虫を入れてあげるのかと思いきや、穴の縁部分に優しい手つきで幼虫を置き始めます。その新しい発想に保育者も驚き、気になりながら顔を覗かせます。その幼虫は落っこちてしまい、「あ～あ、落ちちゃった」と言いますが、すぐまた別の場所へ運び始め、その間、手に乗っている幼虫との触れ合いを楽しみ始めていました。

～しばらく後のこと～

たくさんの友達と保育者が、落ち葉と砂で大きな家を作っていることに気がつき、「落ち葉いっぱい持ってきたよ」と言いながら一緒に家作りを始めると、その家はどんどんどんどん大きくなっていき、子ども達から“完成～”の声が。そこへＳくんが先ほどの幼虫を持ってきて、完成した家の中へ埋めるように隠します。こうしてみんなで作り上げた“虫のお家”が、この“幼虫のお家”へと変わっていき、子ども達は、嬉しそうで満足そうな表情を見せていました。



あおむし



黒アゲハ

～おまけ～
こんな虫たちと
出会ったよ！

# Nano3

## ～「粘土ってたのしいね」～

自由遊びでは粘土に熱中している姿がよく見られます。保育者が「粘土する人～」と声をかけると、「ぼくも！」「わたしも！」とすぐに子ども達が集まります。以前は「先生、丸作って～」「恐竜作って～」と、保育者の助けを求めながら自分が作りたいものを制作していました。「みんな上手だから自分達で作れるよ！」と声をかけても、「できない～先生が作ってよ」と自信がない様子の子もいました。しかしある日、部屋いっぱいに粘土を広げて全身を使って粘土と触れ合う活動をしました。その時から子ども達の粘土に対する感覚が変わっていくのを感じました。“粘土は大人のように何か形を作るもの”という雰囲気から、“いつも使ってる玩具のように遊ぶもの”という雰囲気に変わったのです。いつも通り粘土で子ども達と遊んでいると、「今日は何作ろうかな～」「先生、こんなの作ったよ」と話している姿が多くなりました。保育者がご飯を作ると「ご飯を食べるアリさん作ってあげるね！」と、以前とは真逆の“作ってほしい”から“作ってあげる”に・・・

粘土と親しみ、粘土と遊び、子ども達が作ることの楽しみを見出していくことが出来ました。それを誰かと共有して関わることで遊びも広がり、表現することへの自信にも繋がっている姿はとても嬉しかったです。

## ～想像を創造していく～

子ども達の頭の中には、大人が想像もできないような世界が広がっていると思います。粘土を含め日々の活動の中で表現すること、誰かと共有して遊びに広げていくことが楽しめるようになってきた 3 歳ナノ組さん。日常にも物凄い作品が溢れています。

電車や車が好きな子が多く、「道路を長くしよう」とみんなで協力して繋げていきました。大人は遊んでいても壊れにくくて、とにかく途切れないように繋げていこうとする中・・・「こうした方がかっこいいかも！おもしろいかもしれない！」と、驚くような組み立て方をしながら子ども達は繋げていきました。しばらく遊び、すると道路をどんどん壊しながらまた組み立て直していきます。「壊しちゃうの？」と訊くと「もっとかっこよくするんだ！」と。子ども達の頭の中には本当に計り知れない想像があり、それを自分の力で創造できる力をもっていることにとても驚き、大切にしていきたいなと感じました。

子ども達の頭の中には本当に計り知れない想像があり、それを自分の力で創造できる力をもっていることにとても驚き、大切にしていきたいなと感じました。

# Nano4

## 恐竜の化石発掘隊！～続編～

先月に引き続き、散歩に行くと静かに公園の片隅で化石探しをしたり、お部屋では恐竜の図鑑を見てレゴやLaQ、色々な玩具を使って恐竜を作ったりとブームはまだまだ続いています。

ある日、大きな化石を見つけた二人、難しい顔をして化石と向き合っています。
ＡくんとＢくん「大きな化石見つけたんだけど・・・なかなか割れないんだよね！」
どうやら、二人は化石を割りたいようです。二人は相談しながら枝をノコギリのようにして切ろうとしたり、頑丈そうな枝を見つけては叩いてみたり、全体重をかけて乗ってみたり、地面に叩きつけてみたり・・・
しかし化石はびくともしません。「割れなかったね～！」と顔を見合わせましたが、そんな二人は笑顔でどこか満足気です。
あの手、この手を使って化石を割ろうとした二人。お互いの案を出し合い、一つひとつ試した結果が例え成功しなくても、友だちと力を合わせてやり切った様子が見られました。“化石を割りたい”という目標が達成されなくても、そこまでの経過の中で、お互いそれぞれ考え、意見を出し合って、試してみる。ダメでも違う方法で試してみる。そんな二人の姿から、考えること、挑戦すること、友だちと協力すること、結果が全てではないんだと改めて気づかされました。

## 食欲の秋～続編～

感染対策の為、パーテーションがあるなかでの給食。せっかくみんなと一緒の給食を楽しむ為に、引き続き BGM を流しての食事を楽しんでいます。和食をベースとした献立なので『和』の BGM が続いていたある日、ポークチャップが出ました。少しテイストを変え海外のファストフード店にいるようなアメリカンな BGM を流すと、「この曲好き！」と頭でリズムをとったり、体をクネクネしたりしてリズムを取る姿も♪パーテーションの反対側にいるお友だちと見つめ合って笑い合う子ども達。言葉がなくても音楽で繋ぐ一体感。コロナ渦になって限られることもありましたがこうして楽しく給食を食べています。

夕方の自由時間に音楽をかけると、５歳ナノ組の女の子たちが舞台上で踊り始めました。それを見ていた４歳ナノ組のお友だちもドキドキしながらも「入れて！」と言って一緒に踊っています。色んな音楽を流すと曲のニュアンスを感じ取り、曲調に合わせてダンスをして、表現するようになってきました。音楽に触れる機会が増えたことがきっかけとなり、今度は聴いた音楽を絵にすることになりました。リズムを口ずさみ、音楽から想像する色や生き物などを描いて楽しんでいます。
まだまだ恥ずかしさが残る４歳ナノ組の子ども達がこれからどんな表現をしていくのか楽しみです。

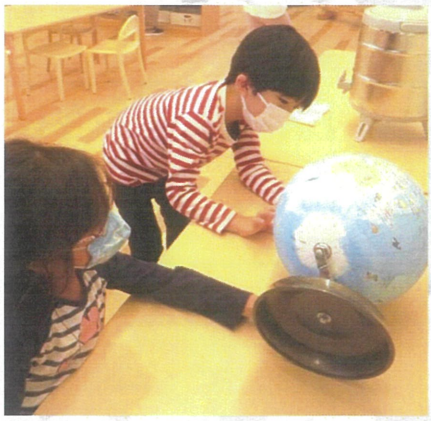
# Nano5

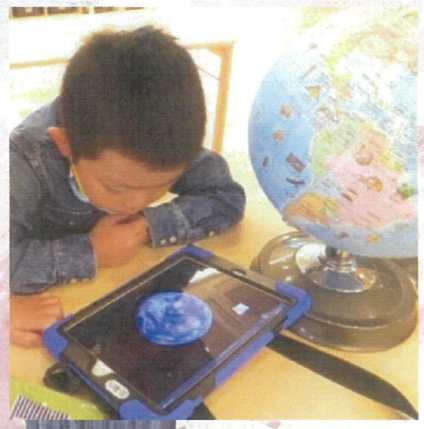
## 地球はこれくらいでいいんじゃない？

M さんが地面に大きな丸を描いていました。十五夜で作った月の大きさと比べると地球はこれくらいがいいそうです。「いいね！」と友だちも賛成して、巨大な地球を作ることにしました。超巨大風船を準備し、張り子の土台になる巨大地球を膨らませました。ところが、超巨大風船には最初から穴が開いていたのです。「先生、空気が出ているよ。」シューという音とともに超巨大風船はしぼんでいきました。気を取り直し、ＲくんとＡさんの提案で地球儀と同じ大きさで張り子の地球を作ることにしました。張り子の月と地球の大きさが逆転してしまいましたが、子ども達が小さいサイズの月を作ってくれました。十五夜で作った月は冥王星に張り替えて一件落着。巨大な地球を見ることはできませんでしたが、楽しいやりとりが続きました。

## どうなっているの？

「星は丸いんだよ。宇宙には数えきれないほどの星があるんだよ。」Ｒくんの言葉です。宇宙を作ってみたいね。と子ども達の気持ちが一つになりました。「南極はどこにあるの？」「火星はどれ？」「太陽ってどうなっているの？」「土星には輪があるんだって。」と宇宙への関心が高まりました。Ａさんが地球儀をひっくり返してみると南極は下の方にありました。iPad で地球を見ていたＴくんは、「茶色い所がある。きっとこっちは砂漠だ。」と大発見。どの星を作るのか友だちと話し合い、図鑑や地球儀、iPad を使って星の研究が始まりました。星の土台は子ども達が一つひとつ丁寧に作った張り子です。完成が楽しみですね。





## この石、重いよ！

公園に落ちていた石を拾ったＡくん。想像していた重さと違う手ごたえに驚いたようです。「先生、持ってみて。」手渡された石は本当に重かったです。「隕石かも……。」嬉しそうに石を保育園に持って帰ったＡくんは、すぐにスケールで重さを調べました。

「６グラムだったよ。」と報告に来たＡくんに、たまたま保育者のポケットに入っていた別の小石を渡すとＡくんは再びスケールのある場所に向かいました。「こっちは３グラム。」「さっきの石は６グラム。」「一緒にはかったら９グラムだよ。」石の重さを比べ、足し算までしていました。遊びの中で探求する姿に感動しました。その後「どうしたの？」と友だちが来ると「持ってみて。」と嬉しそうに石の重さを伝えていました。

# 12がつのほけんだより

早いもので、今年も後１ヵ月となりました。気温差で体調を崩すお子さんがたくさんいました。園では手洗い・うがいを呼びかけ、風邪予防をしています。年末年始は、家族で過ごす楽しい行事が盛りだくさんのことでしょう。生活習慣が乱れがちとなりますので睡眠・食事の時間を意識して体調管理をしていきましょう。

## 感染性胃腸炎が流行り始めます

感染性胃腸炎とは、主にウィルスなどの微生物を原因とする胃腸炎の総称です。園での感染経路の主は飛沫感染と空気感染です。そのため、登園してからの突然の嘔吐が、胃腸炎拡大の原因となりました。

**「子どもからお腹の症状を訴えてくる」「保育園に行きたがらない」「元気がない」「行動が遅い」「機嫌が悪い」「食欲がない」「体温が高め」など、「いつもより……」と感じたら**自宅で様子を見てください。

園での感染拡大防止にご理解・ご協力の程お願いします。

### 汚れた衣服は…

85℃の熱湯に１分以上浸けるか、塩素系漂白剤を薄めた物で消毒します。

→

消毒ができたら洗濯機に入れても大丈夫です。

→

**マスク、手袋を着けて**（二次感染予防のため）汚れた場所もしっかりと消毒を行いましょう。

### 年末年始の急病は？

年末年始はほとんどの病院が休診となります。お子さまの急な発熱やけがに備えて、事前にかかりつけの病院の他、近くの救急病院の診療時間と休診日は確認しておきましょう。

### 12月の予定

| | |
|---|---|
| 発育測定 | 12月7日（火） |
| 0歳児健診 | 12月6日（月） |
| | 16日（木） |

### 手足口病に注意しましょう

園医の矢野先生より「**手足口病**」が出ていると、お知らせがありました。

高熱が出て、その後に水泡が出来るとのことです。手足口病は夏風邪の一種と言われ夏に流行りますが、最近では時期は関係ないようです。注意してください。

インフルエンザワクチン接種をしていない方は接種をお勧めします。

Lunch & Snack time

# 食育だより

## 楽しい季節を元気に過ごしたい　１２月

アート展にクリスマス会、年末年始と楽しいことがたくさん控えているこの時季、風邪や胃腸炎などで体調を崩さないよう栄養たっぷりの食事をとって元気に過ごしましょう。
また、クリスマスの食事の準備や台所の大掃除など、子どもにもお手伝いをしてもらうよい機会です。楽しくお手伝いができると、食欲にもつながります。

### できるだけ食事のお手伝いを

冬休みは、ふだんより親子で一緒に過ごす時間があります。そこで、お子さんにお食事のお手伝いを呼びかけてみてはいかがでしょうか。
お買い物で一緒に食材を選んだり、簡単な下準備を手伝ってもらったりなど、まずは子どもができる範囲で参加することから始めてみましょう。そして、「ありがとう。おいしいよ」の一言で、子どもの食への関心を高めていきましょう。

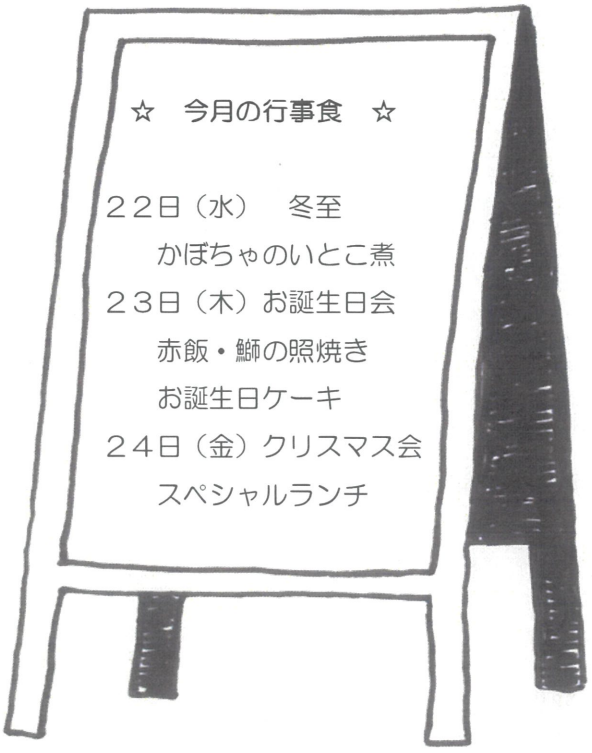
### アルテの畑

先日、畑の大根と赤カブの間引きをしました。間引いた葉は茹でるととても鮮やかな緑色になりました。給食の豚汁の吸い口にしてみんなでいただきました。

### 今が旬！　このコーナーでは旬の食材を紹介していきます

～私は、ゆず子さん　～

私の原産は、中国・長江の上流域。約１３００年前の奈良時代までに朝鮮半島を経て日本に伝わったの。柑橘類の一種で、高知県が全収穫量の半分を占め、徳島・愛媛と続くの。旬は秋から冬にかけて。
皮に豊富に含まれるヘスペリジンという成分は、毛細血管を広げて血液を流れやすくするので、冷え性を改善させる効果があるの。冬至のゆず湯は、この効果を利用しているのね！
１２月の給食にも「ゆず」を使用したメニューがあるので、季節の香りを楽しんでね。
☆ゆずを使用したお献立☆「白身魚の幽庵焼き」「柚子香和え」



*子どもたちに魔法が見えるのは、それを探しているからだ。*

*クリストファー・ムーア（米・作家 1957～）*

# Atelier

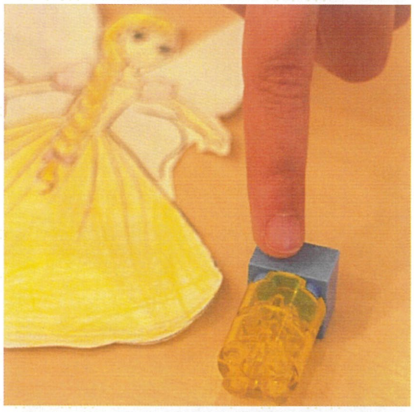
## 「子どもと遊び・子どもとアルテ」

子ども達の側にいると、驚かされることばかりです。先日の朝も、登園してきたSさんが可愛い絵を見せてくれました。

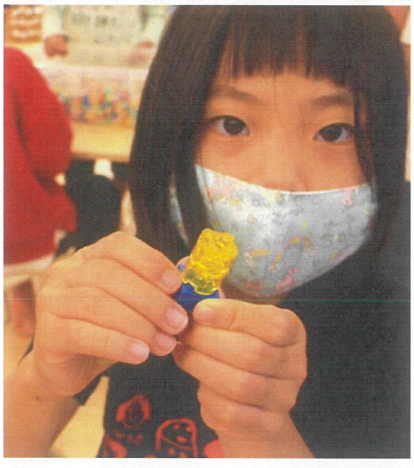
***「見て見て～ これ可愛いでしょ～」***

差し出された妖精の絵は、丁寧に色鉛筆で色を塗り、これまた丁寧に切り抜かれたもの。朝一番で見せてくれたことから、昨日自宅に帰り一生懸命に仕上げた姿が想像できます。

さて、今回のお話の本題はここからです。そしてSさんは、こう話しを続けます。***「このスカートのところ、黄色にみず色を混ぜたの。そしたら黄緑になって、すごくきれいな色でしょ！」***もう一度見せてもらうと、妖精のスカートの裾がうっすらと黄緑色に。さらに目をこらすと、確かにその色は黄色にみず色を重ね塗りをして生まれたものでした。



その時です。Sさんは、たまたま目の前の机にあったレゴブロックの箱を見て***「そうだ、実験してみよう」***と言うと、たくさんあるブロックの中から不透明なみず色と透き通った黄色のブロックを見つけ出しました。***「この二つをつけてみると……」******「あ！ほらほら、見て見て！！ここのところ」***指の先をよく見ると、二色のブロックの重なりのところだけが、きれいに黄緑色に見えるのです。



近くで見ていたIさんもビックリ。さっそくIさんも、じゃあこうしたらとみず色のブロックを青のブロックに換えて実験。***「あ！黄色と青だと緑に見える！！」***さらに***「青を赤にすると、オレンジに見えるんじゃない？」***と仮説を展開。それではとやってみますが…見えた色は赤。その結果から***「赤が濃すぎて、黄色の光でも無理だったんじゃないかな」***とIさんなりの推論も導き出しました。

混色の魔法をレゴでしようというアイデアが瞬時に閃く子ども達に、私はただ脱帽でした。

子ども達は日々過ごす中で、五感をフルに使って感じ、発見や疑問に対し自分なりに考え、遊びと共に何かを生み出しています。

幼児ともなると、友達と一緒にさらに大きなものを目指す過程で様々な考えに出会い、時には意見をぶつけ合い、色々なアプローチで探究しながら自分とつながる世界を広げ、深めています。

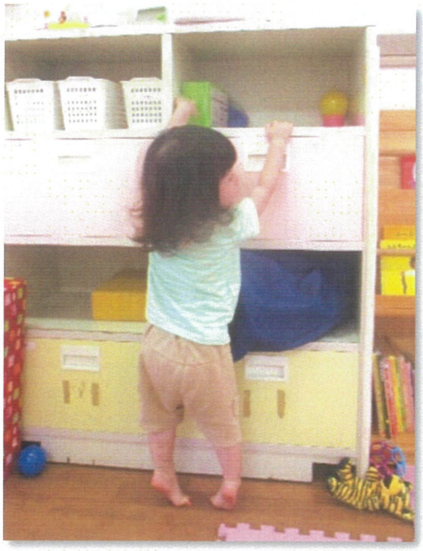
間もなく「アート展」です。今年は「出会う・あそぶ・もの語る」を切り口に、前回以上に子ども達がアルテ（芸術・表現）を生み出すプロセスの中でどんな想いを心に宿していたのかをも、ご来園される皆様にお届けできたらと思っています。

（ 一然 ）

# #ユナタン⑥

2021年12月　片山喜章

## １歳児の子どもでも持っている、友達を“援助するこころ”



１歳児クラスの子どもたちが０歳児の保育室で過ごしていた時の出来事です。

お鼻がでているジュリアに花子先生は「自分でティッシュを探してお鼻をふけるかな？」と声を掛けました。ジュリアはあちこちを見渡し、ロッカーの上の棚にあるティッシュの箱を発見しました。しかし、１歳児の保育室とは違い、子どもの手が届かない高さにティッシュの箱が置いてあります。ジュリアは背伸びをしますが、思うように手が届きません。しかも、ティッシュの取り出し口が棚の横面にピタッとくっついていましたから尚更です。

そこで台になる物を見つけて運ぼうとしましたが、重くて、重くてうまくいきませんでした。そしてとうとう、自分の両足をロッカーにかけて登って両手でつかまりました。しかし片手で体を支えながら、もう片方の手でティッシュの箱を掴もうとするのは困難でした。

“ああ、やっぱり無理だったかな、でも自分の力で何とかティッシュを取ろうとするジュリアの心意気は凄いな”と花子先生は感心しながらその様子をずっと観察していました。“そろそろジュリアのガンバリを褒めてあげて、私が取ってあげようかな”と思っていたまさにその時、ドラマは生まれたのでした。

ジュリアが悪戦苦闘している様子をじっと見ていたのか、たまたま目に入っただけなのか、そこはよくわかりませんが、突然、同じ１歳児で背の高いトオルがやってきて、ティッシュの箱を取ってあげようとしたのです。“わ～、トオルくん、素敵！”と花子先生はトオルの思いやりに感激しました。しかしドラマはさらに深みを増します。トオルはティッシュを取ってあげるのではなくて、**自分で取ろうと奮闘していたジュリアの気持ちを汲んだ**のか、ジュリアが取りやすい方向に箱の位置を動かしたのです。

そして何も言わないで立ち去っていきました。

その場面を見た花子先生は、逆にトオルに教えられた気になりました。私たち大人は多くの場合、「子どもができない事はやってあげる」のが援助だと意識の表面で考えがちです。しかし、その子がしたい事が出来なかったら、自分でできるようにしてあげることが援助であり、見守るという行為です。子どもは関係性の中で育つと言われますが、１歳児の気持ちを１番理解しているのは１歳児なのかもしれません。子どもどうしの玩具の奪い合いでは、もしかすると、奪う側の気持ちも奪われる側の気持ちも、お互いの気持ちを双方が意識の深～いところで理解しあっているのかもしれません（大きなトラブルがあっても３０分後、また同じ２人で仲良く遊ぶ場面をよく見かけます）。今回のケースは、**この園の日頃の保育や園風土を色濃く反映したものだと言えます。**それにしても、我々大人社会こそ、乳幼児の世界から真摯に学ぶべきことが多いように思います。

※　#ユナタンは、ひとまず終了します。

アルテ
子どもと本